

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立白子高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		○ 互いの人権を尊重し、心豊かな生徒を育てる学校 ○ 学力向上と進路実現を図り、自立した生徒を育てる学校 ○ 地域から愛され応援される、誇りを持った生徒を育てる学校
(2)	育みたい資質・能力（育みたい生徒の姿） 【グラデュエーション・ポリシー】	○ お互いを認め合い、豊かな人間関係を築くことができる生徒 【規則や約束を守る力、意見を聴く力、意見を発信する力、働きかける力】 ○ 自分で考え、行動し、主体的に生きることができる生徒 【基礎的・専門的な知識、課題を見つけ解決に取り組む力、物事に進んで取り組む力】 ○ 共に支え合いながら、地域社会のために貢献できる生徒 【進路や職業を選択決定する力、自己の役割を認識し実行する力】
	ありたい教職員の姿	○ 目指す学校像の実現に向け、情報共有と意思疎通を図るとともに、同僚性を重んじ、教育活動に関し説明責任を果たすことができる教職員集団 ○ 仕事にやりがいを感じ、個々の生徒の学力の向上と個性の伸長を目指し、協働して教育課題の解決に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		《生徒》①安心・安全で、楽しく学べ、活気ある学校生活 ②学力の伸長 ③希望する進路の実現 《保護者（家庭、PTA）》①安心・安全で、規律ある学校生活 ②基礎学力の修得 ③希望する進路の実現 《地域》①地域を支える人材の育成 ②地域の活性化 ③災害時の防災機能	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 《保護者（PTA）》 ○ 安全・安心な学校、情報の共有 ○ 規律ある学校生活の維持 ○ 学力の向上、進路実現 《地域住民（自治会）》 ○ 防災機能の強化、地域との連携 ○ 地域の活性化のための協力・交流 《中学校》 ○ 学力・体力の向上、特別活動（部活動・学校行事等）の充実 ○ キャリア教育の推進、進路の実現 《大学、事業所、NPO等》 ○ マナー、コミュニケーション力の育成 ○ 基礎学力の定着	連携する相手への要望・期待 《保護者（PTA）》 ○ 教育活動についての共通理解 ○ 学校・家庭の連携と役割分担の確立 ○ 親子間の豊かなコミュニケーション 《地域住民（自治会）》 ○ 教育活動への理解と支援 ○ 防災についての情報共有 《中学校》 ○ 中高の相互理解と緊密な連携 ○ 本校への理解と適切な進路指導 《大学、事業所、NPO等》 ○ キャリア教育充実のための連携強化 ○ 求人数の増加

(3) 前年度の学校関係者評価など		○一人ひとりのニーズや特性に応じたきめ細かな指導や支援を進めるため、SSW や外部専門家を活用し、持てる力や可能性を伸ばすとともに、自立と社会参画に必要な力を育む必要がある。 ○「総合的な探究の時間」が調べ学習に終始するのではなく、探究的な学習へと改善を図り、生徒の問う力「なぜ」を引き出し、基礎学力の定着につなげて欲しい。 ○規則やルールを生徒自ら遵守するには、規則やルールの根拠について自ら調べ理解を深めるよう主体性を引き出す取組が必要である。 ○教員の資質向上を図るため、複数の目標を掲げるのではなく、「対話力」の向上を柱に、授業改善や生徒指導、進路指導、特別支援へと発展させる必要がある。 ○授業の一環として地域や産業界と連携した取組は、地域の高齢者への貢献や文化の研究に繋がると共に、自己肯定感の向上にも関係するため継続して実施して欲しい。また、自己肯定感に否定的な回答をした生徒について要因分析が必要である。 ○働き方改革やコンプライアンスの徹底については、産業界の事例を共有し、教育現場に取り入れていく事も必要である。（休養する事も仕事の一環として考える。）
(4) 現状と課題	教育活動	○個々の生徒のニーズや特性に応じた組織的な指導や支援の一層の充実が求められている中、3年間を見通したキャリア教育と自校通級の研究を進める必要がある。 ○学力の向上に向けて、ICTを活用（タブレット端末）した個別最適な学習支援（調べ学習やオンライン授業）の推進、授業改善・評価手法の充実、生徒の自己肯定感の醸成や変容把握・分析を系統的に進めていく必要がある。 ○「総合的な探究の時間」の改善を学年進行で進め、生徒が課題を発見し、問いを深める主体的な学びを推進し、授業改善、生徒指導、進路指導、人権教育、特別支援教育へと繋げていく必要がある。
	学校運営等	○「信頼される学校であるための行動計画」に基づき、同僚性を大切にしたい言動が受け入れられる職場環境づくりとコンプライアンス等に関する研修を進め、教員相互、生徒や保護者、地域から一層の信頼向上を図る。 ○生徒が主体的に学ぶ力の育成に向け、職員相互公開の授業研究や観点別評価の研究、生徒の主体性を育む教師の対話力向上研修、「総合的な探究の時間」の改善充実等を進め、教職員の資質向上に努める。 ○学校行事や部活動、資格取得に関する教員の指導や支援体制の改善をとおして、働き方改革と教育活動の活性化（専門性の向上、地域や産業界と連携した取組）の両面をバランス良く進める。 ○校舎や備品などの老朽化が顕著となっており、それらの更新を進めていく等、学習環境の改善に取り組む必要がある。また、保護者の経費負担削減については常に成果と課題を分析し、見直しを進めていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○生徒が安心して生き活きと学べる環境づくりを進めるため、全ての教育活動を通して自尊感情や自己肯定感を高め、人権感覚あふれる学校づくりを進めていく必要がある。 ○生徒の主体的に学ぶ力を育むため、一人一台端末と、整備された ICT 環境を活用し、授業改善や評価手法の充実、生徒の変容把握等に取り組む等、日頃からきめ細かな学習支援を積極的に進めていく必要がある。 ○社会的・職業的自立に必要な力を高めるため、生徒が自己理解や職業理解を深め、適性に応じた進路の実現に向け、授業・学校行事・資格取得・部活動等を通じてキャリア発達を促す取組を一層充実させていく必要がある。
学校運営等	○信頼される学校であるための行動計画に基づいた教育活動を進め、教職員の意識改革と資質向上に努め、更なる信頼の構築を図る。 ○各部署の活動内容や手続きの見える化を進めて連携を深め、組織力を高める。 ○職員相互公開の授業研究や観点別評価の研究、生徒の主体性を育む対話力育成研修等を進め、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 ○安心・安全な学校づくりのための仕組みを強化する。

	・生徒の完全下校時刻の設定による、生徒・職員の安心・安全、健康の確保を行う。 ・防災訓練の充実、安全点検の強化、施設・設備の充実を図る。 ・社会に開かれた教育課程の実現を目指し、家庭・地域との連携を進める。
--	---

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	《普通科、普通科・文化教養（吹奏楽）コース、生活創造科共通》 ○明確な目標と目的意識を持って高校生活に取り組める生徒 《普通科》 ○全ての教科学習に対して真面目に取り組める生徒 ○勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動またはボランティア活動等に取り組んでおり、入学後も高校生活において継続して努力する意志のある生徒 《普通科・文化教養（吹奏楽）コース》 ○全ての教科学習に対して真面目に取り組める生徒 ○吹奏楽活動に興味・関心があり、高校生活において継続して努力する強い意志のある生徒 《生活創造科》 ○家庭に関する知識や技術の習得に興味があり、真面目に取り組める生徒 ○勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動またはボランティア活動等に取り組んでおり、入学後も高校生活において継続して努力する意志のある生徒
--	--

5 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力の向上と定着	(1) 外部指標を活用して生徒の学習における成果と課題を把握し、改善策を講じる。 【活動指標】 ・基礎力診断テストを1, 2学年で3回実施。 ・各学年及び3教科で、上記テストを資料とした中間振り返り及び年度末総括の実施。 【成果指標】 ・基礎力診断テストで前年度評価の維持（共通の指標（GTZ）が示されることを活用する。） ・授業が分かりやすいと回答した生徒の割合（7割以上） (2) ICTを活用した教育を推進する。 【活動指標】 ・教育課程委員会及び情報教育推進委員会における検討や教科・学年・分掌による組織的な取組の検討。 【成果指標】 ・自動採点ソフト活用割合の増加 (3) 学習成果の評価手法の確立に向けて観点別評価を検証し職員間での共有を図り実践を積み上げる（教務） 【活動指標】		

	・教員研修や研究会の実施 (3回) 【成果指標】 学校アンケート ・授業が分かりやすいと回答した生徒の割合 (7割以上) ・学校が楽しくなった回答した生徒の割合 (7割以上) ・授業アンケートによる生徒の授業満足度 (75%以上)		
キャリア教育の充実で 活気ある学 校生活	(1) 3年間を見通した、「総合的な探究の時間」の充実とキャリア教育を推進する。 【活動指標】 ・年間計画に基づいた「総合的な探究の時間」において探究的な学び推進。(実施回数 15回) 【成果指標】 ・学校アンケート「キャリア教育が充実している」と回答した生徒の割合 (85%以上) ・自身の興味関心や問いを深めることの楽しさを知ることができたと回答した生徒の割合 (70%以上) (2) 進学・就職試験での面接等を含め、社会的・職業的な自立に向けた資質を育むため生徒への指導と支援の充実を図る。 【活動指標】 ・3年生への面接指導の充実(就職希望者7回以) ・進学指導の充実(進学希望者2回以上) 【成果指標】 ・就職試験結果での内定率 (85%以上) ・進路希望調査に書かれた志望校への合格率 (85%以上) ・自尊感情に関するアンケート「自分の判断や行動を信じる事ができる」と回答した生徒の割合 (60%以上) (3) 「生きる力」のベースとなる規範意識、コミュニケーション能力を高め、自主・自立の精神を促し、主体的に行動できる生徒を育てる。(生徒指導・生徒会、各学年) 【活動指標】 ・生徒が主体的に規律ある学校生活を送るための、挨拶を中心とした生徒指導の実施。(通年実施) ・頭髪服装指導 (8回実施) ・ICTの安全・安心な利用を学ぶ講座(年1回実施) 【成果指標】 ・学校アンケート「規範意識が高まった」と回答した生徒の割合 (97%以上) ・自尊感情に関するアンケート「自分の判断や行動を信じる事ができる」と回答した生徒の割合 (60%以上)		◎

安心・安全な学校	(1) 心身の健康をサポートし、安心して通学できる安全な環境整備を図る。(総務・保健) 感染症、熱中症、不審者対策等に対し、生徒が自助や共助の行動が取れるように努める。 【活動指標】 ・国や県の示すガイドラインに基づく安心・安全な環境・体制づくり。 ・緊急連絡網(すぐーる)への加入割合(9割以上) ・生徒・保護者に対し適切なタイミングでの意図的な情報発信を行う。(保健だよりの発行 年間8回以上) 【成果指標】 ・学校アンケート「安心して学校に通える」と回答した生徒の割合(90%以上) (2) 多様な生徒に対応するため、スクールカウンセラーや教育相談員、発達障害支援員、スクールソーシャルワーカーなど外部専門家を適切に活用し、学校として組織的な指導を行う。また、いじめ防止に向け、学校全体で具体的な取り組みを行う。(保健・生徒指導) 【活動指標】 ・スクールカウンセラー・教育相談・特別支援コーディネーターを活用 ・自校通級の取組とその成果と課題を職員間で共通理解を深める。 ・生徒指導部・保健部の連携及び、各学年保健係・生徒指導係との連携した取組。 ・いじめアンケートの実施(学期毎実施) ・いじめ防止のためのキャッチフレーズを各クラス1つ以上挙げ、学校全体で取り組む。(6月実施予定) 【成果指標】 ・学校アンケート「安心して学校に通える」と回答した生徒の割合(90%以上) ・学校アンケート「学校に悩みを相談する場所(人)がある」と回答した生徒の割合(90%以上) (3) 命の大切さや人権に係る教育を系統的に実施し、生徒の安心・安全と健康を守る。(総務・人権教育推進委員会) 【活動指標】 ・「命を大切にする教育」の系統的な計画表の見直しと校内共有の徹底等 ・人権教育推進計画にそっての取組を実施し、人権感覚あふれる学校づくりに取り組む。 【成果指標】 ・学校アンケート「本校は、お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にする指導をおこなっている」と回答した生徒の割合(90%以上) ・自尊感情に関するアンケート「自分の個性を大切にしたいと思う」「自分の事を必要としてくれている人がいると思う」と回答した生徒の割合(80%以上) (4) 大規模災害に備え、避難先・避難経路の確認及び点検		◎
------------------------	--	--	----------

	訓練等の防災について学ぶ機会を通して生徒自身が自助と共助の行動が取れるように努める。（総務） 【活動指標】 ・ 1次避難訓練・2次避難訓練の実施（特に1次避難訓練については、完全形態で実施）（4，8月実施予定） 【成果指標】 ・ 教職員の訓練参加（90%以上） ・ 避難訓練の大切さを理解した生徒（90%以上）		
改善課題			

（2）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 ◎：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組及び信頼の構築	（1）学校の課題と情報を共有し、学校全体での取組を進めるため、全員研修会を実施する。（品質向上委員会） 【活動指標】年3回以上の開催 ・ 生徒の主体性を育む教師の対話力育成研修（生徒の自主・自立を育み、授業改善に繋げる） 【成果指標】次年度にむけた改善策の提案 （2）信頼される学校であるため、ヒヤリハット事例の共有や教職員一人ひとりが教育活動を自己点検し、コンプライアンス意識の向上に努める。 【活動指標】 ・ 信頼向上委員会でのヒヤリハット事例の検討（3回以上） ・ 定期的なコンプライアンスセルフチェックの実施（3回） ・ コンプライアンス研修（3回以上） 【成果指標】 ・ 学校アンケートで「教職員は、専門的な知識が豊富で、授業内容が信頼できる」及び「教職員は、生徒が相談したときに、親切に応じてくれる」及び「教職員は、生徒達の進路希望実現に向け熱心に取り組んでいる」の各項目で、満足度（80%以上） （3）来校者等の立場に立った接客対応（相手が安心する窓口・電話対応） 【活動指標】 ・ 事務室等の情報共有等の方策の検討 ・ 主務者が相手側の立場に立った資料作成等を徹底し、主務者以外の職員によるチェックを確実に実施するとともに、ホウレンソウの日常化の徹底 ・ 事務職員・教員は窓口・電話対応時に相手方の表情や声の調子等にも気を配った対応を実施 【成果指標】		◎

	・情報共有フォルダ活用の意識の向上 ・不適切な対応による重大な危機の発生（0件） ・生徒・保護者・来校者等からの事務対応にかかる苦情件数（0件）		
授業の改善と充実	（１）「基礎力診断テスト」の分析と共有を通して授業力の向上を図る（教務、学年） 【活動指標】 ・分析報告会を年２回以上開催 【成果指標】 ・授業アンケートによる生徒の授業満足度 75%以上 （２）新学習指導要領の３観点（基礎的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育み、学びに向かう力を涵養する）に対応した、わかりやすく学習意欲を引き出すための授業の工夫を進める。（教務 教育課程委員会） 【活動指標】 ・職員相互授業公開を年２回実施 ・教科担当者による授業アンケートの実施 ・ICT を活用した授業の実施。 【成果指標】 ・学校評価アンケート「生徒が意欲的に取り組むよう授業を工夫している」と感じた生徒の割合（80%以上） ・ICT を活用した授業を実施した教員の割合（70%以上） 学校アンケート ・授業が分かりやすいと回答した生徒の割合（7割以上） ・授業アンケートによる生徒の授業満足度（75%以上）		
保護者・地域との連携及び情報発信	（１）開かれた学校づくりの一環として、保護者や地域への情報発信を適時行い、生徒の状況や学校の対応などを適切に周知する 【活動指標】 ・HPで校内の様子を発信する（学校行事・特色ある授業・部活動等）（50回以上更新） 【成果指標】 ・行事終了後、3日以内のHP掲載 ・全ての科・コースからの情報発信 ・全ての部活動の情報更新 （２）学科やコースの専門的で特色ある活動を一層深めるため、産業界や地域と連携した取組を推進し、生徒の様子や活動の成果を地域に発信する。 【活動指標】 ・こまめなHPの更新、特色ある取組の報道機関への資料提供 【成果指標】 ・HPの更新回数（年間45回以上） ・報道機関への資料提供（年間8回以上）		
働きやすい職場環境づくり	（１）働き方改革を推進するため、総勤務時間の削減に取り組むと共に、部活動ガイドラインに沿った適切な部活動の実施に努める。 【活動指標】		

	・毎月全部活動が活動計画書を作成、提出 ・定時退校日に定時に退校できた職員の割合 70%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後開催された会議が、60 分以内に終了する割合を 70%以上 ・夏季休業中に学校閉校日を 2 日設定 【成果指標】 ・時間外労働時間を、一人あたり月（13 時間以下） ・年 360 時間を超える時間外労働者数（0 人） ・月 45 時間を超える時間外労働者数（延べ人数 0 人） ・一人当たりの年間休暇取得日数（16 日以上） （2）円滑な組織運営の一環として、事務職員と教員が連携できる環境づくりを進める。 【活動指標】 ・共有備品の見直しや点検に関する検討会議 ・所属不明物品の整理整頓 ・備品の点検、更新 【成果指標】 ・型式の古い備品の新規入れ替え（3 種類以上）		
改善課題			

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	
-----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	
学校運営について の改善策	

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立白子高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		○ 互いの人権を尊重し、心豊かな生徒を育てる学校 ○ 学力向上と進路実現を図り、自立した生徒を育てる学校 ○ 地域から愛され応援される、誇りを持った生徒を育てる学校
(2)	育みたい資質・能力（育みたい生徒の姿） 【グラデュエーション・ポリシー】	○ お互いを認め合い、豊かな人間関係を築くことができる生徒 【規則や約束を守る力、意見を聴く力、意見を発信する力、働きかける力】 ○ 自分で考え、行動し、主体的に生きることができる生徒 【基礎的・専門的な知識、課題を見つけ解決に取り組む力、物事に進んで取り組む力】 ○ 共に支え合いながら、地域社会のために貢献できる生徒 【進路や職業を選択決定する力、自己の役割を認識し実行する力】
	ありたい教職員の姿	○ 目指す学校像の実現に向け、情報共有と意思疎通を図るとともに、同僚性を重んじ、教育活動に関し説明責任を果たすことができる教職員集団 ○ 仕事にやりがいを感じ、個々の生徒の学力の向上と個性の伸長を目指し、協働して教育課題の解決に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	《生徒》①安心・安全で活気のある学校生活 ②学力の伸長 ③希望する進路の実現 《保護者（家庭、PTA）》①安心・安全で、規律ある学校生活 ②基礎学力の修得 ③希望する進路の実現 《地域》①地域を支える人材の育成 ②地域の活性化 ③災害時の防災機能	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	《保護者（PTA）》 ○ 安全・安心な学校、情報の共有 ○ 規律ある学校生活の維持 ○ 学力の向上、進路実現 《地域住民（自治会）》 ○ 防災機能の強化、地域との連携 ○ 地域の活性化のための協力・交流 《中学校》 ○ 学力・体力の向上、特別活動（部活動・学校行事等）の充実 ○ キャリア教育の推進、進路の実現 《大学、事業所、NPO等》 ○ マナー、コミュニケーション力の育成 ○ 基礎学力の定着	《保護者（PTA）》 ○ 教育活動についての共通理解 ○ 学校・家庭の連携と役割分担の確立 ○ 親子間の豊かなコミュニケーション 《地域住民（自治会）》 ○ 教育活動への理解と支援 ○ 防災についての情報共有 《中学校》 ○ 中高の相互理解と緊密な連携 ○ 本校への理解と適切な進路指導 《大学、事業所、NPO等》 ○ キャリア教育充実のための連携強化 ○ 求人数の増加
(3) 前年度の学校関係者評価など	○ 一人ひとりのニーズや特性に応じたきめ細かな指導や支援を進めるため、SSW や外部専門家を活用し、持てる力や可能性を伸ばすとともに、自立と社会参画に必要な力を育む必要がある。 ○ 生徒の規範意識の向上を図るため、校則やルール・マナーについて「安心・安全な学校づくり」の観点から必要性があることを受け入れたり、見直し等において意見交流を図るなど自発的・自治的な活動を尊重する必要がある。 ○ 一人一台端末と整備された ICT 環境を活用し、これまでに蓄積された実践を最適に組み合わせることで、主体的・対話的で深い学びに繋げていく必要がある。 ○ 保護者・地域との連携の一つのツールとして、HP を活用した情報発信に向け、全ての教員が更新の意識を持ち、学校運営に関わる必要がある。 ○ 地域の期待や要望を踏まえ、地域と連携した防災訓練を実施していく必要がある。	

(4) 現状と課題	教育活動	○発達障害支援の件数が大幅に増加している現状があるため、支援の必要な生徒の情報と、特性を理解し、配慮すべきことを共有していく必要がある。 ○学力の向上に向けて、一人一台端末と整備された ICT 環境を活用し、授業改善や評価手法の充実、生徒の変容把握等に取り組む等、きめ細かな学習支援を積極的に進めていく必要がある。 ○SNS上でのトラブルが増えている中、ICTを活用する中でマナーとリスクマネジメントを継続して教育していくことが必要である。 ○避難訓練等の学校行事について、コロナ禍の前後を検証し、効果があると判断できる取組は充実させていくべきである。
	学校運営等	○昨年度、学校 WEB ページのリニューアルを行い、積極的な更新を行う事が出来たが、部活動の更新は部によって差があり、全部活動が定期的に更新していく必要がある。 ○働きやすい職場環境づくりについて、教職員がゆとりをもって業務が行えるように少しでも改善していく必要がある。特に、部活動に関する過重労働時間が増加傾向にあるため、目標達成に向けた計画的な部活動運営が一層求められている。 ○校舎を含めて、備品などの老朽化が顕著となっており、それらの更新を進めていく等、学習環境の改善に取り組む必要がある。 ○保護者の経費負担削減については常に考えていく事柄であるので、継続して教材や学校行事等について、成果と課題を分析し、見直しを進めていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○生徒が安心して生き活きと学べる環境づくりを進めるため、全ての教育活動を通して、自尊感情や自己肯定感を高め、人権感覚あふれる学校づくりを進めていく必要がある。 ○生徒の主体的に学ぶ力を育むため、一人一台端末と、整備された ICT 環境を活用し、授業改善や評価手法の充実、生徒の変容把握等に取り組む等、日頃からきめ細かな学習支援を積極的に進めていく必要がある。 ○社会的・職業的自立に必要な力を高めるため、生徒が自己理解や職業理解を深め、適性に応じた進路の実現に向け、授業・学校行事・資格取得・部活動等を通じてキャリア発達を促す取組を一層充実させていく必要がある。
学校運営等	○信頼される学校であるための行動計画に基づいた教育活動を進め、教職員の意識改革と資質向上に努め、更なる信頼の構築を図る。 ○各部署の活動内容や手続きの見える化を進めて連携を深め、組織力を高める。 ○職員相互公開の授業研究や観点別評価の研究、生徒の主体性を育む対話力育成研修等を進め、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 ○安心・安全な学校づくりのための仕組みを強化する。 ・生徒の完全下校時刻の設定による、生徒・職員の安心・安全、健康の確保を行う ・防災訓練の充実、安全点検の強化、施設・設備の充実を図る。 ・社会に開かれた教育課程の実現を目指し、家庭・地域との連携を進める。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	《普通科、普通科・文化教養（吹奏楽）コース、生活創造科共通》 ○明確な目標と目的意識を持って高校生活に取り組める生徒 《普通科》 ○全ての教科学習に対して真面目に取り組める生徒 ○勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動またはボランティア活動等に取り組んでおり、入学後も高校生活において継続して努力する意志のある生徒 《普通科・文化教養（吹奏楽）コース》 ○全ての教科学習に対して真面目に取り組める生徒 ○吹奏楽活動に興味・関心があり、高校生活において継続して努力する強い意志のあ
---------------------------------	--

	る生徒 《生活創造科》 ○家庭に関する知識や技術の習得に興味があり、真面目に取り組める生徒 ○勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動またはボランティア活動等に取り組んでおり、入学後も高校生活において継続して努力する意志のある生徒
--	--

5 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
 また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力の向上と定着	(1) 外部指標を活用して生徒の学習における成果と課題を把握し、改善策を講じる。 【活動指標】 - 基礎力診断テストを1, 2学年で3回実施。 - 各学年及び3教科で、上記テストを資料とした中間振り返り及び年度末総括の実施。 【成果指標】 - 基礎力診断テストで前年度評価の維持(共通の指標(GTZ)が示されることを活用する。) - 授業が分かりやすいと回答した生徒の割合(7割以上) (2) ICTを活用した教育を推進する。 【活動指標】 - 教育課程委員会及び情報教育推進委員会における検討や教科・学年・分掌による組織的な取組の検討。 【成果指標】 - 自動採点ソフト活用割合の増加 (3) 学習成果の評価手法の確立に向けて観点別評価を検証し職員間での共有を図り実践を積み上げる(教務) 【活動指標】 - 教員研修や研究会の実施 (3回) 【成果指標】 学校アンケート - 授業が分かりやすいと回答した生徒の割合(7割以上) - 学校が楽しくなった回答した生徒の割合 (7割以上) - 授業アンケートによる生徒の授業満足度(75%以上)	【活動指標】 ◎3回実施 主体的に学習に取り組む態度の育成を推進する 【成果指標】 ◎3教科GTZ 教科により成果の差がある ◎授業が分かりやすい(82.1%) 【活動指標】 ◎自動採点ソフトの活用 【成果指標】 ◎殆どの教科で採点ソフト活用 【活動指標】 ◎3回実施 観点別評価の充実 【成果指標】 ◎授業が分かりやすい(82.1%) ◎楽しくなった(77.9%) ◎生徒の業満足度(81.6%)	

キャリア教育の充実で活気ある学校生活	(1) 3年間を見通した、「総合的な探究の時間」を中心とする系統的な進路指導を促進する。 【活動指標】 ・年間計画に基づいた「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育の推進。(実施回数 56回) 【成果指標】 ・学校アンケート「キャリア教育が充実している」と回答した生徒の割合(85%以上) (2) 進学・就職試験での面接等を含め、社会的・職業的な自立に向けた資質を育むため生徒への指導と支援の充実を図る。 【活動指標】 ・3年生への面接指導の充実(就職希望者7回以) ・進学指導の充実(進学希望者2回以上) 【成果指標】 ・就職試験結果での内定率(85%以上) ・進路希望調査に書かれた志望校への合格率(85%以上) ・自尊感情に関するアンケート「自分の判断や行動を信じる事ができる」と回答した生徒の割合(60%以上) (3) 「生きる力」のベースとなる規範意識、コミュニケーション能力を高め、自主・自立の精神を促し、主体的に行動できる生徒を育てる。(生徒指導・生徒会、各学年) 【活動指標】 ・生徒が主体的に規律ある学校生活を送るための、挨拶を中心とした生徒指導の実施。(通年実施) ・頭髪服装指導(8回実施) ・ICTの安全・安心な利用を学ぶ講座(年1回実施) 【成果指標】 ・学校アンケート「規範意識が高まった」と回答した生徒の割合(97%以上) ・自尊感情に関するアンケート「自分の判断や行動を信じる事ができる」と回答した生徒の割合(60%以上)	【活動指標】 ●56回実施 探究活動の推進 【成果指標】 ●キャリア教育が充実(89.3%) 【活動指標】 ●面接指導の平均回数(就職7回以上、進学5回以上) 【成果指標】 ●就職内定率(100%) ●志望校合格率(88.1%) ●判断や行動を信じる(68.3%) 【活動指標】 ●毎朝の登校指導を実施(通年) ●頭髪指導(8回実施) ●SNSの適切な活用講座(1回) 【成果指標】 ●規範意識が高まった(93.5%) ●判断や行動を信じる(68.3%)	
安心・安全な学校	(1) 心身の健康をサポートし、安心して通学できる安全な環境整備を図る。(総務・保健) 感染症、熱中症、不審者対策等に対し、生徒が自助や共助の行動が取れるように努める。 【活動指標】 ・国や県の示すガイドラインに基づく安心・安全な環境・体制づくり。 ・緊急連絡網(すぐる)への加入割合(9割以上) ・生徒・保護者に対し適切なタイミングでの意図的な情報発信を行う。(保健だよりの発行 年間8回以上)	【活動指標】 ●感染症の予防として換気状況の測定(2回、各3日) ・WBGT測定器配付 ●緊急連絡網加入率(85.1%) ●保健だより(12回)	

	【成果指標】 ・学校アンケート「安心して学校に通える」と回答した生徒の割合（90%以上） （2）多様な生徒に対応するため、スクールカウンセラーや教育相談員、発達障害支援員、スクールソーシャルワーカーなど外部専門家を適切に活用し、学校として組織的な指導を行う。また、いじめ防止に向け、学校全体で具体的な取り組みを行う。（保健・生徒指導） 【活動指標】 ・スクールカウンセラー・教育相談・特別支援コーディネーターを活用 ・生徒指導部・保健部の連携及び、各学年保健係・生徒指導係との連携した取組。 ・いじめアンケートの実施（学期毎実施） ・いじめ防止のためのキャッチフレーズを各クラス1つ以上挙げ、学校全体で取り組む。（6月実施予定） 【成果指標】 ・学校アンケート「安心して学校に通える」と回答した生徒の割合（90%以上） ・学校アンケート「学校に悩みを相談する場所（人）がある」と回答した生徒の割合（90%以上） （3）命の大切さや人権に係る教育を系統的に実施し、生徒の安心・安全と健康を守る。（総務・人権教育推進委員会） 【活動指標】 ・「命を大切に教育」の系統的な計画表の見直しと校内共有の徹底等 ・人権教育推進計画にそっての取組を実施し、人権感覚あふれる学校づくりに取り組む。 【成果指標】 ・学校アンケート「本校は、お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にする指導をおこなっている」と回答した生徒の割合（90%以上） ・自尊感情に関するアンケート「自分の個性を大切にしたいと思う」「自分の事を必要としてくれている人がいると思う」と回答した生徒の割合（80%以上） （4）大規模災害に備え、避難先・避難経路の確認及び点検訓練等の防災について学ぶ機会を通して生徒自身が自助と共助の行動が取れるように努める。（総務） 【活動指標】 ・1次避難訓練・2次避難訓練の実施（特に1次避難訓練については、完全形態で実施）（4，8月実施予定） 【成果指標】 ・教職員の訓練参加（90%以上） ・避難訓練の大切さを理解した生徒（90%以上）	【成果指標】 ●安心して学校に通える（90.7%） 【活動指標】 教育相談担当と養護教諭を核に外部人材と協働し生徒のケアに努めた。 ●每学期実施 ●標語やポスターの募集、いじめ防止運動を実施 【成果指標】 ●安心して学校に通える（90.7%） ●悩みを相談する人がいる（85.7%） 【活動指標】 ●保健講話「生と性」、「ライフプラン」の実施 ●障がい者差別、部落問題、アイヌ問題、インターネットによる人権侵害に関する講演等 【成果指標】 ●生命や人権を大切にする指導（91.9%） ●個性を大切にしたい（89%） ●自分を必要としてくれる人がいる（71%） 【活動指標】 ●避難訓練（2回） 【成果指標】 ●教職員の参加率（90%以上） ●生徒の理解度（90%以上）	
--	---	--	--

改善課題
・ 個別の生徒に応じた組織的な特別支援教育の実施と巡回指導（通級）の研究 ・ ICTを活用（タブレット端末）した個別最適な学習支援（調べ学習やオンライン授業）と授業改善 ・ 生徒の主体性を育む生徒指導を通して自己管理能力の育成を図る ・ 探究的な学びの推進（総合的な探究の時間の充実）を通して、自ら発見した課題に対して問いを立て、深める力を育成する

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最

重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組及び信頼の構築	（１）学校の課題と情報を共有し、学校全体での取組を進めるため、全員研修会を実施する。（品質向上委員会） 【活動指標】年１回以上の開催 ・ 生徒の主体性を育む対話力育成研修（生徒の自主・自立を育み、授業改善に繋げる） 【成果指標】次年度にむけた改善策の提案 （２）信頼される学校であるため、ヒヤリハット事例の共有や教職員一人ひとりが教育活動を自己点検し、コンプライアンス意識の向上に努める。 【活動指標】 ・ 信頼向上委員会でのヒヤリハット事例の検討（３回以上） ・ 定期的なコンプライアンスセルフチェックの実施（３回） ・ コンプライアンス研修（３回以上） 【成果指標】 ・ 学校アンケートで「教職員は、専門的な知識が豊富で、授業内容が信頼できる」及び「教職員は、生徒が相談したときに、親切に応じてくれる」及び「教職員は、生徒達の進路希望実現に向け熱心に取り組んでいる」の各項目で、満足度（80%以上） （３）来校者等の立場に立った接客対応（相手が安心する窓口・電話対応） 【活動指標】 ・ 事務室等の情報共有等の方策の検討 ・ 主務者が相手側の立場に立った資料作成等を徹底し、主務者以外の職員によるチェックを確実に実施するとともに、ホウレンソウの日常化の徹底	【活動指標】 ●全ての教職員を対象とした対話力向上研修を実施した。（７月実施） 【成果指標】 ●総合的な探究の時間に関する内容等の見直しを図った。 【活動指標】 ●個人情報の適正管理、人権意識の向上、体罰に関するコンプライアンス研修や事例検討を実施 ●ヒヤリハット事例（個人情報管理、わいせつ・パワハラ等）の共有 ●セルフチェック２回実施 ●授業内容が信頼できる（86.3%） - 相談した時親切に応じて（89.3%） - 進路希望実現に向け熱心（93%） 【活動指標】 職員間の情報共有の明確化と丁寧な意見交換の実施	

	・事務職員・教員は窓口・電話対応時に相手方の表情や声の調子等にも気を配った対応を実施 【成果指標】 ・情報共有フォルダ活用の意識の向上 ・不適切な対応による重大な危機の発生（0件） ・生徒・保護者・来校者等からの事務対応にかかる苦情件数（0件）	【成果指標】 ●大きな危機の発生（0件） 生徒や保護者と教職員との意思疎通に隔たりが見られることがあった。	
授業の改善と充実	（1）「基礎力診断テスト」の分析と共有を通して授業力の向上を図る（教務、学年） 【活動指標】 ・分析報告会を年2回以上開催 【成果指標】 ・授業アンケートによる生徒の授業満足度 75%以上 （2）新学習指導要領の3観点（基礎的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育み、学びに向かう力を涵養する）に対応した、わかりやすく学習意欲を引き出すための授業の工夫を進める。（教務 教育課程委員会） 【活動指標】 ・職員相互授業公開を年2回実施 ・教科担当者による授業アンケートの実施 ・ICT を活用した授業の実施。 【成果指標】 ・学校評価アンケート「生徒が意欲的に取り組むよう授業を工夫している」と感じた生徒の割合（80%以上） ・ICT を活用した授業を実施した教員の割合（70%以上） 学校アンケート ・授業が分かりやすいと回答した生徒の割合（7割以上） ・授業アンケートによる生徒の授業満足度（75%以上）	【活動指標】 ●全職員による報告会の実施 ●3教科GTZ教科により成果の差あり 【成果指標】 ●生徒の授業満足度（81.6%） 【活動指標】 ●授業公開（2回実施） 授業後のアンケート実施、ICTを活用した授業と採点の実施 【成果指標】 ●授業の工夫（85%） ●ICTを活用した授業（85.8%） ●授業が分かりやすい（82.1%） ●授業満足度（81.6%）	
保護者・地域との連携及び情報発信	（1）開かれた学校づくりの一環として、保護者や地域への情報発信を適時行い、生徒の状況や学校の対応などを適切に周知する 【活動指標】 ・HPで校内の様子を発信する（学校行事・特色ある授業・部活動等）（50回以上更新） 【成果指標】 ・行事終了後、3日以内のHP掲載 ・全ての科・コースからの情報発信 ・全ての部活動の情報更新 （2）学科やコースの専門的で特色ある活動を一層深めるため、産業界や地域と連携した取組を推進し、生徒の様子や活動の成果を地域に発信する。	【活動指標】 - HPの更新（50回以上更新） 【成果指標】 ●行事終了後3日以内にはWEB掲載を行った。また、学科やコース、部活動に関する情報発信。	

	【活動指標】 ・こまめな HP の更新、特色ある取組の報道機関への資料提供 【成果指標】 ・HP の更新回数（年間 45 回以上） ・報道機関への資料提供（年間 8 回以上）	【活動指標】 ●報道提供資料 ●学科やコースの専門性を活かした地域と連携した活動を発信できた 【成果指標】 更新回数：50 回以上 資料提供：10 回以上	
働きやすい職場環境づくり	（１）働き方改革を推進するため、総勤務時間の削減に取り組むと共に、部活動ガイドラインに沿った適切な部活動の実施に努める。 【活動指標】 ・毎月全部活動が活動計画書を作成、提出 ・定時退校日に定時に退校できた職員の割合 70%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後開催された会議が、60 分以内に終了する割合を 70%以上 ・夏季休業中に学校閉校日を 2 日設定 【成果指標】 ・時間外労働時間を、一人あたり月（13 時間以下） ・年 360 時間を超える時間外労働者数（0 人） ・月 45 時間を超える時間外労働者数（延べ人数 0 人） ・一人当たりの年間休暇取得日数（16 日以上） （２）円滑な組織運営の一環として、事務職員と教員が連携できる環境づくりを進める。 【活動指標】 ・共有備品の見直しや点検に関する検討会議 ・所属不明物品の整理整頓 ・備品の点検、更新 【成果指標】 ・型式の古い備品の新規入れ替え（3 種類以上）	【活動指標】 毎月の部活動計画の確認 ●定時退校 79.3% ●休養日取得 83.3% ●60 分以内の会議 70.3% 【成果指標】 ●時間外労働時間（21 時間） ●年 360 時間超（14 人） ●45 時間超（延べ 83 人） 【活動指標】 ●制服の生地変更に係る検討 【成果指標】 ●武道場空調機等、図書館書架、空調機更新、LED 交換、体育館スロープ、各所雨漏り修理、	
改善課題			
・同僚性を大切にした職員相互の対話とコンプライアンスの徹底 ・教師のための「生徒の主体性を育む対話力育成研修」と総合的な探究の時間に係る授業計画の改善 ・部活動や資格取得に関する教員の支援体制の改善を通じた働き方改革と教育活動の活性化 ・専門性の向上を図るため、地域や産業界と連携した取組の推進と情報発信			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・キャリア発達を促すためのキャリア教育の充実が必要である。 ・「総合的な探究の時間」が、調べ学習に終始するのではなく、探究的な学習へと改善を図る必要がある。また、生徒の問う力（「なぜ」）を引き出す。 ・規則やルールを生徒自ら遵守するには、規則やルールの根拠について自ら調べ理解を深める必要がある。 ・「自分の事を必要としてくれる人がいると思う」と回答した生徒の割合（71%）に対して否定的な回答をした 30%の生徒について要因分析が必要である。
---------------------	---

	・教員の資質向上を図るため、複数の目標掲げるのではなく、「対話力」の向上を柱に、授業改善や生徒指導、進路指導、特別支援へと発展させていくことが必要である。 ・授業の一環として地域や産業界と連携した取組は、地域の高齢者への貢献だけでなく、自己肯定感の向上にもつながる大事なことであり、継続して実施してほしい。 ・働き方改革やコンプライアンスの徹底については、産業界の事例を共有し、教育現場に取り入れていく事も必要である。（休養する事も仕事の一環として考えて欲しい。）
--	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・個々の生徒に応じた組織的な特別支援教育の充実と定着（自校通級の導入）に向けて研究を進めていく。 ・「総合的な探究の時間」の改善を学年進行で進め、生徒が課題を発見し、問いを深める主体的な学びを全ての教育活動に波及させていく。 ・生徒の自己肯定感の醸成に向けて継続的な支援を進めていく。
学校運営についての改善策	・同僚性を大切にしたい言動が受け入れられる職場環境づくりとコンプライアンス等に関する研修を進めていく。 ・生徒の主体性を育むとともに、教師の資質向上を図るため、教師の対話力向上を柱とする研修に取り組み、授業改善、生徒指導、進路指導、特別支援教育へと連動させていく。 ・働き方改革を進めていくためにも保護者や地域等と連携して教育環境の改善に取り組む。